

農事組合法人「黒田営農組合」代表理事

木村義一さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

黒田地区の結集力で耕作放棄地がないのが自慢だ——と話すのは、南丹市園部町黒田地区の農事組合法人「黒田営農組合」代表理事の木村義一さん(65)。全戸参加の集落営農活動を経て、同町で一番早く農業法人を設立した。

結集力の原点は、木村さんらが1973年に結成した「黒田野球部」にあるという。同町では集落対抗のスポーツ大会が盛んで、野球部に集う当時20代の木村さんが中心となり、集落ぐるみで綱引きや駅伝などに参加。楽しむことで結束力が高

まったという。

この結束力は、集落営農にも生かされてきた。手間の掛かる黒大豆や小豆の共同作業も、黒田地区内の47戸のほぼ全員が参加してきたが、法人設立は簡単な道のりではなかったと振り返

る。自分の圃場(ほじょう)でなくなるという誤解や、赤字経営を心配する声があった。JA京都などの支援を受け、約2年間の話し合いを重ねた。常に心掛けるのは、みんな楽しく農作業に参加してもらう



▶ 結集力の原点は黒田野球部だと話す木村さん

信頼を次代につなぐ

こと。省力化を目指し、機械化で作業人員を大幅に減らしたところ、みんなが法人任せになつてしまい共同作業に集まらなくなった。「秘策などない。自らが農作業に取り組む姿を見てもらうしかない」と考え、懸命に作業に取り組んだ。そんな木村さんの姿に応え、今では約20人が参加するようになった。

木村さんは「集落の法人で最も大切なのは信頼だ。計画したことをしっかりとやり抜き信頼を築く。そして次代へつないでいく。これが黒田の伝統で、野球部と同じ事だ」と話す。

■法人所在地 南丹市園部町黒田柳ヶ坪12の2

■法人概要 2010年2月設立。理事5人、監事2人、組合員44人。主な農作物は水稲、大豆、丹波黒大豆70㌥、京都大納言68㌥、カブラ27㌥。農機はトラクタ17台、田植え機3台、コンバイン2台。